市民連合の緊急記者会見

「共謀罪」阻止へ声あげる

「安保法制の廃止と立憲主義の回復を求める市民連合」（市民連合）が16日に衆院第1議員会館で行った緊急記者会見での、各氏の発言（要旨）を紹介します。

改憲ではなく「壊憲」

法政大学教授　山口二郎さん

「安倍改憲メッセージ」に強い憤りと危機感をもっています。そもそも閣議決定で憲法9条の解釈を変更して、集団的自衛権の行使を容認した時点で、憲法破壊を行っています。憲法破壊の仕上げとして「9条3項」の提起を行った。これは「改憲」ではなく「壊憲」です。

安倍首相の問題提起は明らかに、民進党の分裂を誘い、野党共闘を破壊する狙いがあります。しかし、ことは条文がどうのではなく、「安倍政権による憲法破壊の企て」それ自体を認めるかどうかです。

市民運動が「安倍的改憲にノー」の声をあげ、安保法制反対のたたかい以来ようやくかってきた野党協力を維持し、結束を強化することが私たちの役割です。

「独裁国家」変えたい

総がかり行動実行委員会共同代表　土井登美江さん

安倍政権の「共謀罪」に対する強硬姿勢に怒りを感じます。

第2次安倍政権が発足して4年たって、三権分立や民主主義がどんどん崩されていると感じます。絶対にやめさせなければならない。議会を軽視する安倍政権は、主権在民をまったく認めない、ある意味独裁国家ではないかと思います。この状況を変えたい。

5月3日の安倍首相の改憲発言はあまりにひどい。9条に3項を付け加えることは、まったく整合性がないことです。

「安倍一強」に対して、いろんな人たちと手を取り合い、民主主義、憲法の3原則を取り戻すために力を入れていきたい。

歴史断ち切らせない

総がかり行動実行委員会共同代表　高田健さん

戦争法、「共謀罪」法案、改憲発言と出てきたことで、安倍首相がどういう日本をめざしているかがはっきりしてきました。

憲法9条に3項をつけ加えることで、1項、2項が否定され、まったく意味をなさないものになる。そういうことがはっきりしました。

いま、「憲法施行70年」の歴史を、安倍首相の改憲によって断ち切らせるかどうかが、私たちに問われていると思っています。

市民連合に結集するさまざまな団体のみなさんといっしょに、「総がかり行動実行委員会」は、全力をあげて安倍改憲に反対していきます。

何も言えぬ社会いや

市民連合みえ　岡歩美さん

「共謀罪」に恐怖を感じます。

昨年夏、ヘリパッド反対で沖縄の高江に何度か足を運び、抗議行動に参加しました。取るに足らない理由で不当に逮捕される人を何人も見ました。逮捕される事実だけで私たちは萎縮してしまう。

市民運動にかかわっている人だけの問題ではありません。「国がしていることはおかしいな」と思ったとき、声をあげることができない状況になってしまうのです。

いま、安倍政権に反対する声は全国各地であがっています。参院選で野党とともにたたかった共闘関係は進化し続けています。

政府に忖度（そんたく）して何もいえないような社会になるのは絶対にいやです。これからも反対の声をあげ続けたい。

メディアも目覚ませ

上智大学教授　中野晃一さん

いま、メディアの中に「正常性バイアス」（困難や危機的状況を補正して受け止め、平静を装おうとする心理作用）があると思います。答弁できない大臣が答弁しているかのように装って報道する。明らかに補正し、修正して、現実を伝えていません。

戦前、「藩閥政治は許さない」と憲政擁護、護憲運動が起きたとき、当時のメディアはしっかり報じました。立憲主義や民主主義は勝ち取られてきたものであることを忘れてはいけない。

今こそ、より多くの人が声をあげ、メディアも目覚まして、立憲主義や民主主義を守らないと取り返しのつかないことになります。

立憲野党の後押しをして、安倍政権を倒さないと、私たちは子や孫に向ける顔がないと思います。

戦争への道 許さない

「共謀罪」法案を廃案に追い込もうと、さまざまな立場の人が声をあげています。「安保関連法に反対するママの会」の町田ひろみさんが12日夕、衆院第2議員会館前で訴えたスピーチ（要旨）を紹介します。

「安保関連法に反対するママの会」の町田ひろみさん＝12日、衆院第2議員会館前

ママの会　町田ひろみさんのスピーチ

5歳と18歳の娘の母親で保育士をしています。一昨日の水曜日（5月10日）に「ママの会@東京」のメンバーを中心に独自のチラシをつくり、原宿駅で「共謀罪はいらない」スタンディングを行いました。多くの国民がその中身を知らされていないのに可決しようとしていることに私は憤りを感じています。

その時、取材で「なぜ、お母さんたちは共謀罪に反対なのですか？」と聞かれました。

ライングループでチャットすること、保育園帰りに井戸端会議をすること、ママ友とランチをすることなど、私たちの日常のなかで当たり前に行っていることが監視対象になるかもしれないからです。

3・11以来、ママたちは放射能の問題に始まり食の安全や原発問題などに興味を持ち考えています。しかし、共謀罪ができたら、今までならママ友とのおしゃべりのなかで気軽に話していたこともいえなくなるかもしれません。

もし、口を滑らせて言ってしまったら「あの人こんなこといってました」と告げ口されてしまうかもしれない。そう思うと誰も信用できなくなります。

私は、子どもたちにそんな社会を残したくはありません。お互いを監視し合い物言えぬ社会は戦争への道の始まりです。だから、私は共謀罪に反対です。

一昨日のシールアンケートで、「知らない」と答えた人たちも共謀罪の説明をすると「反対」に1票を入れました。中身を知れば「反対」する、それが共謀罪です。もっともっと多くの人に中身を知らせる必要があります。

子どもたちの未来のために私は何としても戦争しない日本を残したい。憲法9条を今のまま残したい。「だれの子どももころさせない」ために、私の小さい力が大きな力につながるように、「共謀罪反対！憲法を守れ」そして、「安倍さん、もうやめていいよ」と声をあげていきます。

5/17 毎新